



南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第13号

令和7年3月25日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>

「念ずれば花開く」～つなげる子 認め合う子をめざして～ 校長 関根 治彦

「校長先生、つなげる子 認め合う子 頑張っていますよ。」

一昨日、卒業した6年生の教室を訪れた時に、一人の男の子が私にそう言って話してくれました。南郷小学校の今年度の子どもの目標は「つなげる子 認め合う子」です。

本校の目指す学校は「笑顔に満ちる学校」です。では、子どもたちの「笑顔に満ちる学校」になるためには、どんなことをがんばっていったらよいのか。昨年度末に先生方と話し合いました。本校の子どもたちは人懐っこく、素直な反面、自己肯定感が低いために、力を発揮できずにいる。だから、まずは「自己肯定感を高めるようにしよう」という願いから、たくさんの人とかかわり、そのつながりを大切にしながら、みんなに認めてもらう体験が必要であると考え、前述の「つなげる子 認め合う子」を子どもたちの目標として設定しました。そして、始業式の日の学校長からの話で、今年度ががんばることとお話し、一年が経ちました。学校評価は保護者、教職員とも「子どもたちの自己肯定感が高まったか？」では高い評価となりました。何よりうれしいのは、札幌市共通指標というアンケートでの「自己肯定感にかかわる項目」で90%の子が肯定的に答えたことです。

「念ずれば花開く」という言葉をご存じでしょうか？私がこの言葉を知ったのはプロ野球監督であった野村克也さんからでした。南海ホークスでプレーをし、その後、南海、ヤクルト、阪神、楽天の監督を歴任、6度のリーグ優勝と3度の日本一を実現された方です。他の球団で戦力外通告を受けた選手を引き取って、再度活躍させ「野村再生工場」といわれたり、野球の技術的な話をするだけでなく、物事をどのように考えるかなどを説いた「野村ノート」を用いて選手たちを育成したりするなど、人材育成に定評のある監督でもあります。その野村克也さんが色紙にサインする時に添えていた座右の銘に使っていたもので、著書の中にも触れています。『「念」は「思」よりも強い言葉。どんな選手にも目的を明確にさせ、強い動機づけを持って…』と説いています。

もとは坂村真民さんという熊本出身の方で、一遍上人の生き方に共感し、毎朝1時に起床し、近くの重信川で未明の中、祈りをささげる詩人です。この「念ずれば花ひらく」はその代表作で、この詩が書かれた詩碑は全国に600以上あり、外国にもあるという話です。全誌は右のようなものです。また、坂村真民さんは別の詩で次のようなものも書いています。

花は一瞬にして咲くのではない

一難去ってまた一難

木が美しいのは自分の力で立っているからだ

一番恐ろしいのは自己との妥協だ

念ずれば花ひらく
苦しいとき
母がいつも口づけてた
この言葉を
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたび
わたしの花がふしぎと
ひらひらと
ひらひらと

花が開くためには、まず「念ずること」そして、その後の努力も大切であることがわかります。その努力の中では苦しいこともたくさんあると思います。野村克也さんが『「念」は「思」よりも強い言葉。』と言った重みがここにあります。苦しみを乗り越えていくためには「念」が重要です。念じなければ始まらないのです。念ずることは花が開くための十分な条件ではありませんが、必要な条件です。いわばスタートラインです。前述した6年生の男の子は、そのスタートラインにしっかりと立つことができていたと思われます。そして、札幌市共通指標のアンケートの結果を見ると、その男の子だけでなく、多くの子どもたちが口には出していないが、スタートラインにしっかりと立っていたと感じることができます。

令和6年度の教育活動が本日で終了します。子どもたちの自己肯定感を高めるために、様々な試行錯誤を繰り返した1年間であったと思います。そんな中、保護者・地域の皆様には、深いご理解やご協力をいただけるだけでなく、たくさんのご声援をいただきました。本当にありがとうございます。令和7年度は今年度の教育活動を更に推進していく方向で考えています。目標やテーマが、お題目ではなく「念」として機能し、子どもたちの成長につながっていくように、今年度同様にご理解とご協力よろしくお願いいたします。